

■当山久三 沖縄の民権運動家。謝花昇に呼応、進路を投げ打って帰郷、挫折後、“近代沖縄移民の父”となるも早世。

とうやまきゆうぞう

明治維新・・1868＝ 沖縄県国頭郡金武村に生れた。

明治6年政変 1873＝ 5歳：

西南戦争・・1877＝ 9歳：

明治14年政変1881＝13歳：

帝国大学始・1886＝18歳：

帝国憲法発布1889＝21歳：

沖縄師範を卒業し、

郡司千島探検1893＝25歳： 郷里の金武小学校の校長となったが、薩摩出身の郡長の沖縄蔑視に業を煮やし、

日清戦争始・1894＝26歳：

日清戦争終・1895＝27歳： *校長の地位を捨て並里総代(のちの村会議員)となり、

開墾と村民の啓蒙に力を注ぐ。やがて自らの理論的限界を自覚、東京に留学を決意して苦心の末、

八幡製鉄始・1897＝29歳： *東京淀橋小学校長に就任、進学の準備を整えた。しかし謝花昇が上京、県知事奈良原繁治下の沖縄の窮状を聞き、校長の地位を捨てて帰郷、謝花らと民権運動に挺身。

子規句歌革新1898＝30歳： *弾圧で運動が挫折した後は、移民運動に活路を求めて、窮乏する農民の救済に尽力。

日露戦争始・1904＝36歳：

日露戦争終・1905＝37歳：

伊藤博文暗殺1909＝41歳： *初の県会議員選挙に最高点で当選したが、

韓国併合・・1910＝42歳： 没した。

「この人どんな人」、